

12-2

中学校 総合的な学習の時間 指導事例 「地域の高齢者と共に生活する社会を創るには」

【単元目標】

高齢者と共に生活していく現在の社会を問題意識をもって見つめ直すとともに、高齢者疑似体験や施設での交流等から自らの課題を見つけ、これからの社会の形成者として、それらの課題に対して自分で何ができるか考え、行動しようとする態度を養う。

【目指す子どもの姿】

高齢者の思いを受け止め、共に生きていく社会をつくっていかうとする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全8~12時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>60年先の自分は地域でどんな暮らしをしているだろう?①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60年後のイメージがわきにくいので、地域でみかける高齢者の様子や関わりから、自分の姿を想像してみる。 ・高齢者の様子や関わりから、今の自分が感じたことや考えたことを話し合い、そこから見えてくる課題を探る。 	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>高齢者の疑似体験をしてみよう②~③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・装具を装着して、歩行や字の読み書きなどをする。 〈装具〉 特殊メガネ、ヘッドホン型耳栓、荷重チョッキ、手袋、手首・足首の重り、肘・膝のサポーター等 ・体験から感じたことや考えたことを発表し合う。 ・今の自分が高齢者にできることや将来高齢者になった自分が暮らす社会に望むことなどをレポートにまとめる。 	<p>課題に気付く</p> <p>ポイント2</p>
<p>体験で何が変わった?①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験後、地域で高齢者を見て、以前と気持ちの変化があったか、また、何かしら関わりがもてたか、もてたとしたらどうだったか発表し合う。 	<p>主体的に行動する</p>
<p>高齢者介護施設でボランティア体験をしてみよう②~④</p> <ul style="list-style-type: none"> *施設での体験が難しければ、高齢者や介護に従事している方に来校していただき、お話を伺ってもよい ・介護施設に来ている（暮らしている）高齢者と接して感じたことや考えたことをまとめ、発表し合う。 ・高齢者の介護に従事する方々から、介護について普段思っていることについて伺ったり、高齢者と共に生きていく社会についての質問をしたり、意見を伺ったりする。 	<p>多面的・多角的に考える</p>
<p>共に生きていく社会を創っていくには②~③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの体験等から地域の高齢者と共に生きていく社会の形成者として自分の意見をレポートにまとめ発表する。 	<p>ポイント3</p> <p>社会に参画しようとする</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

いろいろな見方・考え方をもちことが大切です。

地域の高齢者の姿から将来の自分とその自分が暮らす社会を想像し、自分のこととして考えさせることで、課題を見つけさせやすくすることができます。

また、ハード面（施設等）や制度面（生活補助等）での支援がまず思い浮かぶと考えられますが、高齢者と関わり、接していくことでソフト面（喜びの共有や高齢者自身の自己有用感等）の重要性が浮かび上がってきます。

例）祖母と一緒に買った買い物で気付いたことから、自らの課題を見つけようとする

荷物を持ってあげるのはもちろん、ゆっくりゆっくり歩いた。（歩くことも大変なんだ。）

【生徒の思い】

助けてもらえるのはもちろんありがたいけれど、何より一緒に買い物に行けることがうれしい。【祖母の思い】

ポイント2

体験をとおして感じた思いを大切にさせましょう。

疑似体験では、装具を借りるだけでなく、ボランティアの方々が、説明や補助をしてくれることもあります。まずは、電話で相談してみましよう。

＜生徒の感想例＞ 装具をつけた時、高齢者の皆さんはこんなにも重さがかかる事にとっても驚きました。また、特殊メガネをかけて、白内障とはどのように感じるかを体験したとき、光が明るい場所がとても見にくく、新聞では大きい文字しか見えず大変でした。歩いている時に感じたのは足のだるさです。高齢者の多くの方々が、足が上がらず転んでしまったりしてしまうのを耳にしますが、体験をしてそのことがよくわかりました。周りの助けがとてもありがたいことに気づいたので、私も何か手助けできるようにしたいと思いました。

体験をとおして、生徒はイメージだけでは難しかった高齢者の体の動きやそれに伴う心の変化などを感じることができます。体験後、自分から次のアクションを起こしてみたいと考えることは社会の形成者としての第一歩となることから、その思いを大事にしていましよう。

ポイント3

当事者やその関係者の声を聴いて考えさせましよう。

心が揺さぶられる体験をしたり思いを聞いたりすると、「自分はこうしたい」といった、さらに豊かな社会の形成者を指す目標ができます。課題を一段深く掘り下げて自分の考えをまとめさせていきたいところです。また、今までの自分の感想やレポートはポートフォリオとして1冊にまとめ、自分の考えの変化を振り返る資料として生かしていましよう。

＜生徒の感想例＞ ゲームや配膳のお手伝いをただけなのに、最後お別れの時には、涙を流して「ありがとう、また来てね」と言ってもらった。僕もうれしかった。

＜高齢者介護施設の方のお話＞ いろいろなご事情から、なかなかこちらに顔を見せられないご家族もいます。行政や議員さんにも働きかけて、家族に負担なく、さらに、家族と共に気軽にサービスを利用しやすいような仕組みづくりができればいいと思っています。